

第4回 大和郡山市学校規模適正化等審議会 次第

1. 日時

平成31年 1月22日（火） 午後2時開会

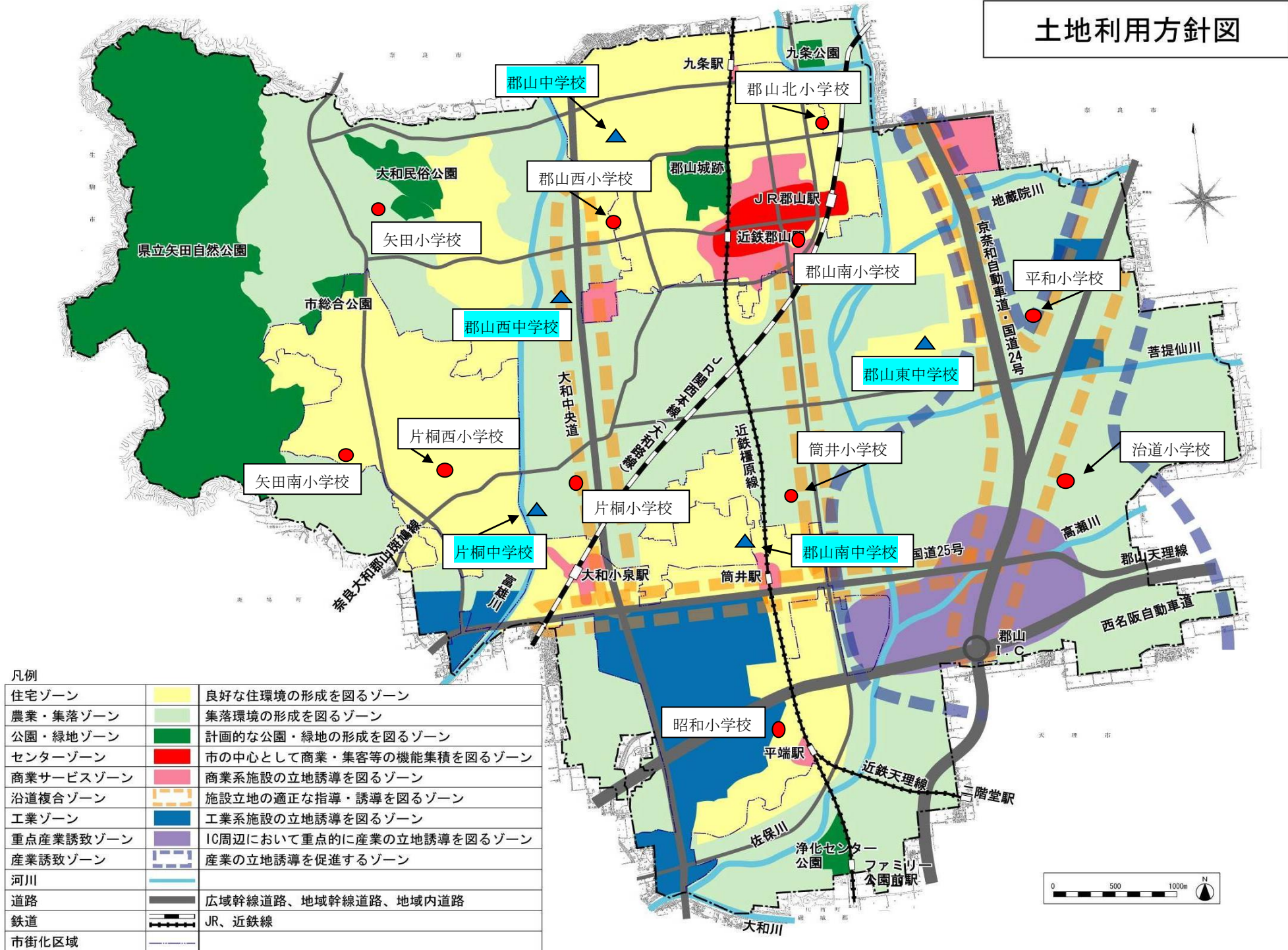
2. 場所

市議会第1委員会室

3. 案件

- (1) 市民へのアンケート（案）について
- (2) 視察の報告
- (3) 学校長へのアンケート調査結果について
- (4) 審議会スケジュール変更案について
- (5) その他

土地利用方針図



凡例

住宅ゾーン		良好な住環境の形成を図るゾーン
農業・集落ゾーン		集落環境の形成を図るゾーン
公園・緑地ゾーン		計画的な公園・緑地の形成を図るゾーン
センターゾーン		市の中心として商業・集客等の機能集積を図るゾーン
商業サービスゾーン		商業系施設の立地誘導を図るゾーン
沿道複合ゾーン		施設立地の適正な指導・誘導を図るゾーン
工業ゾーン		工業系施設の立地誘導を図るゾーン
重点産業誘致ゾーン		IC周辺において重点的に産業の立地誘導を図るゾーン
産業誘致ゾーン		産業の立地誘導を促進するゾーン
河川		
道路		広域幹線道路、地域幹線道路、地域内道路
鉄道		JR、近鉄線
市街化区域		

学校の適正規模等に関する市民アンケート

調査へのご協力をお願い

皆様には、日頃より本市の教育についてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、全国的な少子化の進展に伴う学校の小規模化に伴い、教育上・学校運営上の様々な課題が指摘されております。本市においても児童生徒数は減少傾向にあります。

こうした問題を受け、平成 29 年 12 月、大和郡山市学校規模適正化等審議会が設置され、平成 30 年 5 月教育委員会より諮問を受け、小中学校の児童生徒数・学級数の規模や本市における学校の配置等について、様々な視点から検討を進めているところです。

この調査は、審議会での検討の参考資料とするために、大和郡山市の児童生徒にとっての望ましい教育環境の確保と活力ある学校づくりに向けて、市民の皆様のご意見を広くお聞きすることを目的として実施するものです。

なお、このアンケートは市内在住の 20 歳以上の市民の皆様の中から無作為に 2,500 人を抽出しております。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 31 年 2 月

大和郡山市学校規模適正化等審議会

*** ご記入にあたってのお願い ***

1. 市民の皆様のご意見を広くお聞きするため、小学生や中学生のお子さまがいらっしゃる方についても、調査へのご協力をお願いいたします。
2. この調査は、無記名方式です。名前は書かないでください。
回答いただいた調査の結果は、すべて統計的に処理し、個人を特定することはありません。また、本調査の目的以外には使用しません。
3. 回答は、黒のボールペン、または濃い鉛筆で、同封の調査票に直接ご記入ください。
調査票は 8 ページあります。
4. 回答が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、平成 31 年●月●日（●）までに投函してください。（切手は不要です。）

【本調査に関するお問合せ先】

学校規模適正化等審議会事務局：大和郡山市役所教育委員会 教育総務課 総務係

所在地：〒639-1198 奈良県大和郡山市北郡山町 248 番地 4

電話：0743-53-1151（代表） 内線 713

F A X：0743-52-3211

※本審議会の審議経過について、市のホームページで閲覧できます。市のホームページ内で、検索ワード「学校規模適正化等審議会」とご入力下さい。

学校の適正規模等に関する市民アンケート

< 調査票 >

あなたについてお伺いします。

問1 あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 20～29 歳 | 2. 30～39 歳 | 3. 40～49 歳 |
| 4. 50～59 歳 | 5. 60～69 歳 | 6. 70 歳以上 |

問2 あなたがお住まいの小中学校区を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1. 郡山南小学校 | 2. 筒井小学校 | 3. 矢田小学校 |
| 4. 平和小学校 | 5. 治道小学校 | 6. 昭和小学校 |
| 7. 片桐小学校 | 8. 郡山北小学校 | 9. 片桐西小学校 |
| 10. 郡山西小学校 | 11. 矢田南小学校 | 12. わからない |

問3 あなたがお住まいの中中学校区を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 郡山中学校 | 2. 郡山南中学校 | 3. 郡山西中学校 |
| 4. 郡山東中学校 | 5. 片桐中学校 | 6. わからない |

問4 現在、同居している中学生以下のお子さまはいらっしゃいますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-------|--------------|
| 1. はい | 2. いいえ ⇒ 問6へ |
|-------|--------------|

→※問4で「1. はい」と回答した方に伺います。

問5 そのお子さまは、次の選択肢のうち、どれに当てはまりますか。

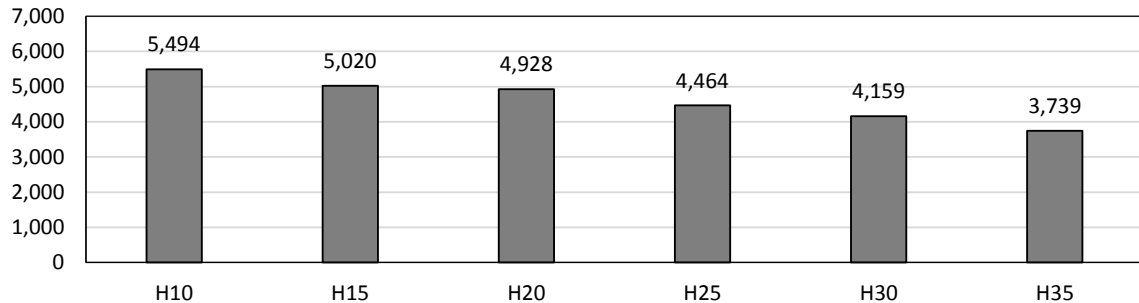
(複数名いらっしゃる場合は、あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1. 未就学児 | 2. 小学生 | 3. 中学生 |
|---------|--------|--------|

※ 下記 2・3 ページの《参考》をご参照のうえ、4 ページ目以降の問いにお答えください。

《 参 考 》

・大和郡山市の小学校児童数の推移（全体）



※H35年の児童数は、住民基本台帳をもとに推計したもの

・大和郡山市の小学校別全校児童数・平均児童数・学級数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

学校名	全校児童数	1 学級あたり 平均児童数	1 学年あたり 学級数
郡山南小学校	629 人	32 人	3～4 学級
筒井小学校	370 人	30 人	2 学級
矢田小学校	225 人	25 人	1～2 学級
平和小学校	283 人	25 人	1～2 学級
治道小学校	91 人	14 人	1 学級
昭和小学校	383 人	26 人	2～3 学級
片桐小学校	399 人	27 人	2～3 学級
郡山北小学校	573 人	29 人	3～4 学級
片桐西小学校	443 人	25 人	2～3 学級
郡山西小学校	483 人	26 人	3 学級
矢田南小学校	280 人	25 人	1～2 学級

※1 学級あたり平均児童数・1 学年あたり学級数については、特別支援学級の数は除く

・国の学級編制の標準

1 学級あたり児童数	1 学年あたり学級数	通学距離等
40 人（1 年生は 35 人）	2～3 学級	4km 以内

・国の通学距離、通学時間の目安

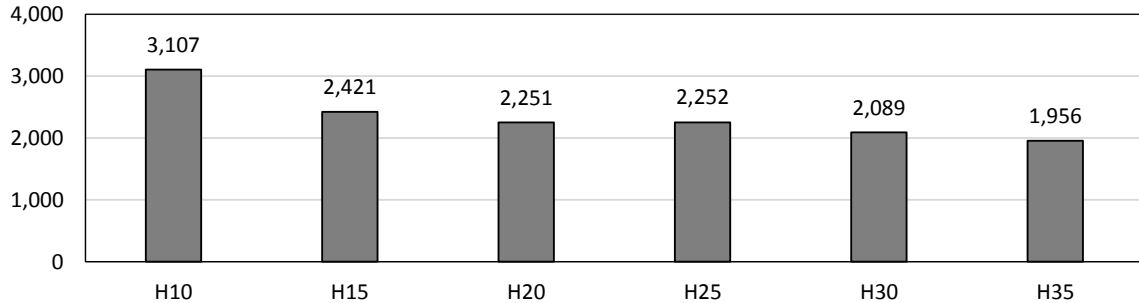
通学距離（※1）	通学時間（※2）
4km 以内	おおむね 1 時間以内

※1 通学距離：徒歩、自転車による通学の目安

※2 通学時間：公共交通機関等を利用し、「通学距離」を超えて通学する場合の目安
（平成 27 年 1 月に新たに追加）

《 参 考 》

・大和郡山市の中学校生徒数の推移（全体）



※H35年の生徒数は、住民基本台帳をもとに推計したもの

・大和郡山市の中学校別全校生徒数・平均生徒数・学級数（平成30年5月1日現在）

学校名	全校生徒数	1学級あたり平均生徒数	1学年あたり学級数
郡山中学校	734人	34人	7学級
郡山南中学校	554人	32人	5～6学級
郡山西中学校	344人	28人	4学級
郡山東中学校	176人	29人	2学級
片桐中学校	281人	30人	3学級

※1学級あたり平均生徒数・1学年あたり学級数については、特別支援学級の数は除く

・国の学級編制の標準

1学級あたり生徒数	1学年あたり学級数	通学距離等
40人	4～6学級	6km以内

・国の通学距離、通学時間の目安

通学距離（※1）	通学時間（※2）
6km以内	おおむね1時間以内

※1 通学距離：徒歩、自転車による通学の目安

※2 通学時間：公共交通機関等を利用し、「通学距離」を超えて通学する場合の目安
（平成27年1月に新たに追加）

小学校についてお伺いします。

問6 小学校1学級あたりの児童数は何人程度が望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 10人以下 2. 11～20人 3. 21～30人 4. 31～40人

問7 問6の「小学校1学級あたりの望ましい児童数」を選んだ理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 学級内で、互いに切磋琢磨できる環境が作れる
2. 先生が目が一人ひとりに行き届く
3. 集団内において様々な役割分担を経験できる
4. 学級内の絆が強まる
5. 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
6. 児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる
7. 学校行事や学習等において、多様な教育活動ができる
8. 学級内の人間関係に変化がもてる
9. その他 ()

問8 小学校1学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 1学級 2. 2～3学級 3. 4～6学級
4. その他 ()

問9 問8の「小学校1学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 学級同士が切磋琢磨できる環境が作れる
2. 異学年間の縦の交流が生まれやすい
3. 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる
4. 児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる
5. 同じ児童とずっと同じ学級で過ごせ、お互いの人間関係が深まる
6. 様々な個性や考え方をもち友達とふれあえる
7. ゆとりのある教育が受けられる
8. クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる
9. その他 ()

問 10 小学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいと思いますか。

（あてはまるもの1つに○）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 500m（徒歩で約 10 分）まで | 2. 1.0km（徒歩で約 20 分）まで |
| 3. 1.5km（徒歩で約 30 分）まで | 4. 2.0km（徒歩で約 40 分）まで |
| 5. 3.0km（徒歩で約 60 分）まで | 6. 4.0km（徒歩で約 80 分）まで |
| 7. 5.0km（徒歩で約 90 分）まで | 8. 6.0km（徒歩で約 100 分）まで |

中学校についてお伺いします。

問 11 中学校 1 学級あたりの生徒数は何人程度が望ましいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1. 10 人以下 | 2. 11～20 人 | 3. 21～30 人 | 4. 31～40 人 |
|-----------|------------|------------|------------|

問 12 問 11 の「中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数」を選んだ理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 学級内で、互いに切磋琢磨できる環境が作れる |
| 2. 先生目が一人ひとりに行き届く |
| 3. 集団内において様々な役割分担を経験できる |
| 4. 学級内の絆が強まる |
| 5. 社会性や協調性を育む機会に恵まれる |
| 6. 生徒一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる |
| 7. 学校行事や学習等において、多様な教育活動ができる |
| 8. 学級内の人間関係に変化がもてる |
| 9. その他（ ） |

問 13 中学校 1 学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 1 学級 | 2. 2～3 学級 | 3. 4～6 学級 |
| 4. その他 () | | |

**問 14 問 13 の「中学校 1 学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)**

- | |
|----------------------------------|
| 1. 学級同士が切磋琢磨できる環境が作れる |
| 2. 異学年間の縦の交流が生まれやすい |
| 3. 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる |
| 4. 生徒一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる |
| 5. 同じ生徒とずっと同じ学級で過ごせ、お互いの人間関係が深まる |
| 6. 様々な個性や考え方をもつ友達とふれあえる |
| 7. ゆとりのある教育が受けられる |
| 8. クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる |
| 9. 部活動の選択の幅が広がる |
| 10. その他 () |

**問 15 中学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいと思いますか。
(あてはまるもの 1 つに○)**

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 500m（徒歩で約 10 分）まで |
| 2. 1.0km（徒歩で約 20 分）まで |
| 3. 1.5km（徒歩で約 30 分）まで |
| 4. 2.0km（徒歩で約 40 分、自転車で約 15 分）まで |
| 5. 3.0km（徒歩で約 60 分、自転車で約 20 分）まで |
| 6. 4.0km（徒歩で約 80 分、自転車で約 25 分）まで |
| 7. 5.0km（徒歩で約 90 分、自転車で約 30 分）まで |
| 8. 6.0km（徒歩で約 100 分、自転車で約 40 分）まで |

地域と学校の関わりについてお伺いします。

問 16 学校は、地域においてどのような役割を果たしていると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場
2. 空き教室利用など地域住民のコミュニティ活動や住民の場
3. 校庭や体育館の開放によるスポーツ活動の場
4. 運動会やお祭など地域のコミュニケーションの場
5. 児童生徒と地域住民が交流する場
6. 地域の伝統・歴史文化を継承し地域のシンボルとなる場
7. 児童生徒の放課後の活動の場
8. その他 ()

問 17 今後、さらに児童生徒数が少なくなることが想定されます。これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 現在の学校数のままでよい
2. 通学区域を見直して、適正な児童生徒数を確保する
3. 学校を統合し、適正な児童生徒数を確保する
4. 小中一貫等、新しい形態の学校を設置する
5. その他 ()

《 参 考 》

問 17 の選択肢4「小中一貫等、新しい形態の学校」とは、小・中学校9年間を通した教育課程を編成し、系統的な教育を行うものです。
具体的には、下記の2つの形態があります。

小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
既にある小・中学校を組み合わせ、一貫した教育を行う学校	小学校課程から中学校課程までの9年間の義務教育を一貫して行う学校

※さらに、学校の立地により施設形態は以下のように分かれます。

- ・施設一体型：同一校舎内で小・中学校の運営を行い、一貫して教育を行う
- ・施設隣接型：隣接する小・中学校で一貫した教育を行う
- ・施設分離型：離れた場所にある小・中学校で一貫した教育を行う

問 18 大和郡山市の学校の適正規模・適正配置について、ご意見があればご自由にお書きください。

問 19 あなたがお住まいの校区の小中学校について、「地域との関わり」という観点から、ご意見があればご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒に入れて、
平成 31 年●月●日 (●) までに郵便ポストにご投函（切手不要）ください。

視察報告

1. 治道小学校

(校長説明)

要覧を見ていただいたらと思いますが、本校は全ての学年が単学級で、1年生12名、2年生一人転出して現在22名、3年生が14名、4年生が12名、5年生が10名、6年生が一人転出して現在19名の合計児童数89名の学校です。特別支援学級児童は、5名で、6年生以外の各学年に1名ずつ在籍しています。また、大和郡山市の小規模特認校制度を利用して、校区外から現在15名の児童が通っています。

小規模校においては、小規模で良かったと思える利点もあれば、小規模が故に課題であると思えることも多くあります。

学習面では、全体指導の中で教師の目が行き届き、個別指導を丁寧に行うことができるとともに、教材教具も余裕を持って使うことができています。

生活面では、個人差がありますが、異学年の友達と一緒に外でサッカーをするなど、学年を超えて遊ぶ姿が見られます。

学校全体では、まず一つ目に、全ての児童の顔や名前、行動面などが把握でき、職員みんなで児童を見守ることができる点です。困っている児童には、担任だけでなく養護教諭や事務職員を含め、いろんな教員が関わっています。

二つ目は、異なる学年の子どもが接する機会を多く持つことができています。全校児童を8つの学年縦割りグループにして、一緒に給食を食べたり外で遊んだりする取組を行っています。運動会では、低・高学年に分かれて演技をするだけでなく、1, 4, 6年の団体競技や2, 3, 5年の団体競技を取り入れるなど、異学年の関わりを多く持たせています。また、徒競走で走る前に、児童一人ひとりが自分のめあてをマイクを通して発表するなどの取り組みは、本校ならではの事かと思えます。遠足なども2学年で行くようにしています。それらが、異学年で仲良く遊ぶ普段の子どもの生活にも現れているのだと思えます。

三つ目は、児童数が少なく地域の協力が得やすいことなどが挙げられます。温かい地域に囲まれ、治道元気プログラムと称して、治道公民館のクラブ活動、陶芸クラブや三味線クラブなどと交流したり、地域の田んぼをお借りして米作りをしたり、地域にお住まいの音楽家が指導されているコーラス隊の方々と音楽の交流をしたりするなど地域との交流も活発に行えています。

一方、課題としては、学習において集団が小さいので多様な考えが出にくく児童同士の交流ができにくかったり、良い意味での競争心が芽生えにくかったりしています。いわゆる切磋琢磨が少ないのが現状です。

生活面では、1年生から6年生までクラス替えがないため、同学年のいろんな友達と

接することが少なく人間関係が固定化されてしまっている傾向が見られます。また、子ども同士が一旦気まずい思いになってしまったり、仲がこじれた場合、修復に時間がかかったりします。親御さん同士がうまくいかないケースなどは大変困ります。

登下校については、分団に分かれての集団登下校を行っていますが、分団で1名という地域も出てきており、他の集合場所まで行ってもらったり途中で合流してもらったりしているところでは、今後、遠い地域から女の子一人で登校しなければならなくなったら大変ですねという地域の方の声も聞かれました。

学校運営面では、少ない教職員の人数から来る課題があります。管理職や非常勤、事務の先生を除いて、教諭としては、担任6名、特別支援2名、専科1名、養護1名の10名です。校務分掌を複数持たなければいけなかったり、同学年で相談する同僚や先輩がいないため、一人でしなければという精神的な負担があります。特に数年勤めていけば分かる部分もあるのですが、初めて赴任した者にとっては不安も多いようです。

保護者にとっての負担としては、人数が少ないため遠足等の交通費が一人 3,000円を超すなど、金銭面での負担が大きいです。PTA においても、他校に比べて一人当たりの会費が高くなっています。

最後に小規模特認校制度ですが、平成24年度から受け入れが始まり今年度で7年目を迎えます。現在各学年に2, 3名この制度を利用して登校している児童がいます。保護者が送り迎えをする等の一定の条件の下、校区外から児童を受け入れていますが、今年度も面接を行いました。来年度はこの制度を利用しての入学はゼロになりました。小規模校なので、一人一人を丁寧にみてもらえんと思っただけで、それ以外に特別支援教育に特化していると捉えられたり、不登校にも対応してもらえんと思っただけで見学に来られる場合が多く、そうではないとお断りするケースが出てきています。

(質疑応答)

Q 安定した人間関係を小さいうちに築けるとするのは大切なことだと思う。小規模だからこそ、いじめが起きる前にしっかりと問題を解決して乗り越えていけるのではないかとと思うが、そのあたりはどうか。

A 定期的に、月1回、いじめ対策委員会という会を持ち、子どもたちの様子を先生たちで共有している。早期の発見のために連携できていると思う。ただ、小規模だからこそ、今はないが、やんちゃな子が一人でもいると、担任はしんどいかなと想像する。いじめを乗り越えていくという点では、そのように強くなってほしいという気もあるが、我が校はどちらかというと過保護かなと感じる。先生方にも温かく見てもらえるので。

Q 実際に今、女の子が一人で通学しているということはあるのか。

A 一人の女の子がいるが、合流してもらっている。また、男の子一人のところもあるが、その子も合流してもらっている。県営白土団地でも、来年、6年生が卒業してしまったら、女の子が一人だけになる。県営白土団地は昔はたくさんの方がいたが、だんだん減ってきて、来年は一人になる。そのあたりの心配がある。

Q 地域の見守りの方についてはどうか。

A 登校のときに、1名、毎朝、いてくださったり、横田駐在所の駐在さんもよく見回りをしてくださったり、下校時には民生委員の方が迎えに来てくださったりする。

Q 先生方は、お若い先生が多いように思ったが、年齢はどうか。

A 20～30代だが、2名ほどしんどくなられ、年配の女性講師に来てもらっている。

(教員説明)

子どもたちの立場からすると、単学級ということで、本当にみんな家族のように仲が良い。何でも知っているという人間関係だが、やはりちょっと課題を持っている子たちにすれば、もう一つ学級があればこの子と離してあげたほうが本人は楽だろうと感じることもある。固定したらちょっとしんどいなと思うところがあるので、そのあたりが課題。授業の中でも、子どもたちによって学力もいろいろだが、その学力もそのままずっといってしまうので、やはり切磋琢磨は足りないように思う。私自身、この学校は2年目で、前は郡山北小学校にいた。田んぼも何もないところから来た。この子は、虫かごを持ってきたりするなど、本当に自然の中でのびのびと育っているなど感じる。それから地域のいろんな行事があり、地域の人たちとのつながりの中で子どもたちも一緒に活躍しているというのも大きい。先日、グリーンキャンペーンがあったが、私の住んでいる地域では私がいちばん若いぐらいの参加者だったが、この子たちに聞いたらほとんどの子たちが参加したと言っていた。地域の力というのがとても大きい場所なんだと感じた。

Q ICTの活用状況はどうか。

A ネットができる環境をこれまで作ってくださっており、教室で使ってくれていることは多い。ただ、今あるタブレットが古くなっており、利用頻度は少ない。ソフトを使ったり、プロジェクターで教科書を大きく写して算数の授業をしたりしている。今年度は新しくパソコン室のタブレットも入れていただいた。今後も利用していきたい。

Q 校務分掌の負担が多いとのことだったが、兼任しないといけないという大変さはあると思うが、一クラスの人数が少ないということは、クラス担任を持ったときの大変さというのとは、たくさん人数がいるよりは楽なのかなと思うのだが、そのあたりはどうか。

A 日々の丸付けや授業でみていくことに関しては、一人ひとりにかかる時間は長いので密度は濃くなるが、例えば学年通信を出すにしても、学年担任が複数人いれば分担できるが、一人だと、毎回作らなければならない。それに加えて校務分掌もあるので、人数の少ないしんどさがある。

2. 郡山東中学校

(校長説明)

昭和58年、この若槻町に郡山東中学校が開校しました。当時としては斬新な造りの校舎ができました。開校当時は、周りには建物も少なく、校舎だけが目立っていました。

35年前は、1年6クラス、2年5クラス、3年5クラスの16クラスあり、603名在籍していました。現在は、各学年2クラスの全6クラス176名まで減少しました。

当時の部活動数は多く、運動部では、水泳部・剣道部・ソフトボール部・バスケットボール部女子・ラグビー部・野球部・陸上部・ソフトテニス部・バスケットボール部男子・バレーボール部女子・バドミントン部が活動していました。文化部では、放送部・コーラス部・手芸部・理科部・美術部・吹奏楽部がありましたが、現在は吹奏楽部と理科と美術が統合したアートクリエイト部が活動しています。

昔は人数も多く文化祭でも沢山の作品を制作していました。

また、多くの学校行事を実施していましたが、生徒総会、水泳大会、マラソン大会等の行事は現在は実施していません。

学校も比較的落ち着きだし、様々な実践研究事業に参画しています。今年度は県教育委員会指定「奈良の子どもの未来を拓く道徳教育推進事業」を受けています。本校は、昔から生徒会活動も熱心で、「元気なあいさつ」「大きな校歌」「きれいな学校」を生徒会のスローガンとして活動しています。

本校の生徒は、素直で幼く人なつつこい子が多いです。しかし、精神面で心配な生徒も多く、不登校の出現率が高いことが心配なところです。今年度も高い出現率になっています。

生徒の減少により、5年前から、生徒会の本部役員も7人から5人に減らしました。少ない人数でも活動しやすい内容を考えて実践しています。テスト後のボランティア活動は全校体制で取り組んでいます。また、人数が少ない分、学年集会や学年単位での学習も図書室や空き教室、視聴覚室などで実施することができています。

以前、体育大会では、男子は組立、女子は創作ダンスをしていましたが、現在は、男女で創作ダンスをしています。また、文化祭と合唱音楽会、PTA バザーを同日開催しています。生徒会本部役員のソーラン節は15年間も続いています。

合唱音楽会では、学年合唱とクラス合唱を実施しています。人数は少ないですが、元気よく楽しく大きな声で歌っています。

学習面の利点として、今年は1年の英語と2年の数学を2つに割って、少人数授業をしています。人数が少ないと教師の目が行き届きやすく、生徒が発言する機会も多いです。また、個別指導の機会が多くとれ、生徒も理解しやすく、より一人ひとりにあった指導がとりやすいのが良い点です。

課題としては、集団が小さい分、競争意識が薄く、問題解決力を育てにくいと思います。また、授業等で生徒の多様な発言や意見が引き出しにくいです。本校では、ほとんどの教師が学年をまたいで指導しているため、定期テストの作成に負担がかかったり、臨時免許で指導しなければならない状況も発生しています。

生活面の利点として、集団としての人間関係や仲間意識が強くなり、1人ひとりがつながりやすいところです。また、全校体制で取り組みやすく、東中は1つという気持ちが生まれています。なんとか2クラスありますので、他のクラスを意識し切磋琢磨している行動が見うけられます。現在は空き教室をランチルームとして利用して、給食を食べています。

課題として、集団が小さいため、自主的な活動の機会が少なく、主体性に欠ける面があります。良くも悪くも周りの雰囲気左右されやすく、一人の生徒にも影響を受けやすい傾向があります。学校行事等でも、頑張っているが活気や盛り上がり欠ける部分を感じられます。毎日の清掃活動でも、教師も生徒も少ない分、掃除のできない場所が発生しているため、汚れているところがどうしても発生します。

学校運営面の利点として、生徒の全体像が把握しやすく、教師が少ない分、学年を越えてつながる事が多く、まとまりやすいです。また、保護者や地域とのつながりがとりやすく、連携しやすいところです。

課題として、職員数が少ない分、校務分掌で一人で複数の役割を受け持たなければならず、そのため一人あたりの出張頻度が多く、授業がまわらない場合もあります。何名以上などの動員がある出張は困っています。学級編制では、人間関係に問題のある生徒が多いと編制に悩むことも多いです。テストの作成でもありましたが、教師が2学年、3学年にまたがって授業していますので、教材研究等に多大な時間を要しています。また、教師の絶対数が少ないため、各行事の役割分担や部活動の顧問も一人

で複数を掛け持ちしなければならず、ギリギリの状態です。

通学の状況(現状の問題点)は、開校後、治道校区は全て自転車通学であり、平和校区も自転車通学の許可区域を定めていますが、一度も見直しされていませんでした。教科書や教材の重量が増え、重い荷物を持つての徒歩通学、また、保護者からの要望や駐輪場のスペースにも余裕があることで、来年度より大きく改訂します。

教員年齢の若返りで、主任クラスの中堅教師が少なく、校務分掌の組織に支障をきたしています。そのため人事については毎年悩まされています。

(質疑応答)

Q 不登校の割合が高いとのこと。不登校になってしまうというのはその生徒それぞれ理由があると思うが、先生方の目からご覧になって、クラス編成と不登校との関連性はいかがか。

A 小学校から引き継いでいる生徒が半分。入学当初は頑張ってくれていたが続かず不登校。できるだけ、中学校に入って新たな不登校を出さないでおこうと、魅力ある学校づくり研究事業も取り組んでいるが、どうしても、生活が合わなくて休みがちになり、休みの日が増えていったという生徒もいる。よく、いじめが原因で学校に来れないと言われるが、本校では確認できていない。家庭の事情、本人のエネルギーが出てこない、お子さんをきちんとみられない家庭のしんどさなどがある。特に担任の先生方は、毎日のように家庭への連絡をしている。家によっては、あまり毎日だとお母さんもしんどくなるので、少し間を置いて定期的に家庭訪問をしたりしている。担任の先生には業務的にも負担をかけている。

たまたまだが、今の2年生の生徒は治道小学校からの生徒が誰もいなかった。同じメンバーがそのまま上がったので、他の学校なら新しい出発というのができたのかもしれないが、それが本校ではできなかった。

Q ここの中学校は、平和小学校と治道小学校だけか。

A はい。

Q では、平和小学校の人間関係がそのままということか。

A はい。もちろん転校生はいるが。

治道小学校が特認校なので、校区外から来てくれている子が3年生に1人いる。遠いので、送り迎えされている。同じメンバーでとの思いで来られている。

(教員説明)

非常に小規模校なので、アットホームだというのは感じている。私は今、2年生の学年主任だが、非常に子どもたちは素直でかわいらしい。生徒と教師の距離がものすごく近い。良い学校だと思っている。その分、今お話があったように、平和小学校の生徒しか上がってこなかったのも、本当に小学校がそのまま中学校になり、変わりたくても変われないという子どももいる。体調的に、心身のバランスが取れなくなっていてしんどくなっている子もいる。変わらない人間関係の中で、いろんな子に気を遣って疲れていたりする。そういった面で、外からの風に当たってこなかったという感じがする。精神的に弱い子が多いのかなと思っている。高校になればその学校に1人で行かなければならない。そういったときに子どもたちが果たして1人でやっていけるのかどうか、今の2年生の教師たちは不安に思っているところ。また、身内ばかりなので、わかってもらっているという子たちが多い。自分のことは言わなくてもわかってもらっている、多少こういうことをしても許されるなど。今後どういう形で人間関係を築いていくのか、2年生に関しては心配している。

Q 学力についてはどうか。

A 切磋琢磨ということがわからないようだ。自分はこんなものだと思っている。なかなか受験に向けてエンジンがかかりにくい。1年生の頃からノートを持たせて、自主学習をさせている。基本的なものを毎日繰り返させ、基礎学力をつけさせようということはやっている。2年生の後半になると、教材を使いながら、受験に向けてのサポートをしたい。テスト前になったら、質問教室というのを設けており、わからないところがあったら残ってサポートしている。全員が残るわけではないが、教えてほしい、もっとやりたいという生徒も中にはおり、行きたい進路に向かって行ってもらいたいと思っている。

Q 距離が近ければ近いほど気になる子どもも増えてくると思うので、負担は大きいのではないか。学年をまたがって受け持っている先生は何名くらいか。

A ほとんどがそう。家庭科等は、3学年全て受け持っている。

学校の適正規模・適正配置に関する
アンケート調査 結果

平成31年1月
大和郡山市学校規模適正化等審議会

I. 調査概要

■調査の対象

市内16校の小・中学校長

■調査の主な内容

- 1.自身が勤務する学校の規模についてどのように感じているか
- 2.選択された理由について、①教育活動・教育効果②教育環境ごとに回答
- 3.小学校・中学校の適正な規模（児童生徒数・学級数）について
- 4.上記について、選択した理由を各項目毎に回答
- 5.児童生徒の通学距離及び通学時間について
- 6.地域と学校の関わりについて
- 7.学校の小規模化が進む中、市として今後どのように検討を進めるべきか
- 8.教育環境の課題についての意見

■調査の目的

学校の小規模化が進む中、児童生徒にとって望ましい教育環境の確保と少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、検討を進める際の参考資料とするため、実施したもの

■調査の方法

手渡しによる配付・回収

（9月上旬～9月末）

■回答結果の割合（％）

全学校数(16校)に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下四捨五入したものです。そのため、合計値が100%にならない場合があります。

Ⅱ. 調査結果

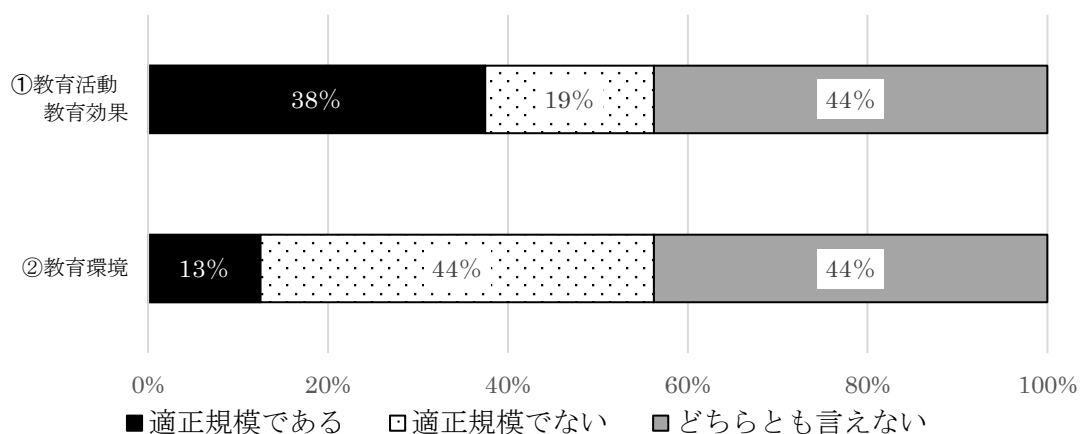
自校の1学級あたりの児童生徒数、学年あたりの学級数について

問1 自身が勤務する学校の1学級あたりの児童生徒数（平均）

（H30.9.1現在）

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特別支援学級
郡山南小学校	33	28	36	36	30	28	5
筒井小学校	27	24	35	34	30	27	3
矢田小学校	31	28	37	19	22	21	1
平和小学校	19	23	36	25	24	28	5
治道小学校	11	21	13	11	9	19	2
昭和小学校	21	26	30	32	22	25	4
片桐小学校	29	33	29	30	21	24	4
郡山北小学校	32	28	28	30	30	33	5
片桐西小学校	27	24	22	25	24	26	6
郡山西小学校	31	24	26	23	28	24	4
矢田南小学校	19	33	25	22	25	27	3
郡山中学校	32	34	35	/			4
郡山南中学校	34	29	31				3
郡山西中学校	27	28	31				1
郡山東中学校	28	28	32				1
片桐中学校	30	30	31				3

問2 自身が勤務する学校の1学級あたりの児童生徒数について、①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）②教育環境（施設、設備、教職員数）などの面から、それぞれどのように感じているか。



①教育活動、教育効果の面では「適正規模である」と答える割合が高かったのに対し、②教育環境の面では「適正規模でない」と答える割合が高かった。「どちらとも言えない」の割合は同じぐらいであった。

問3 問2の回答を選択したそれぞれの理由

①教育活動、教育効果

	小 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が最も効果的に展開でき、保護者対応も丁寧に行える（25～30人） ・児童が互いに交流しながら活動するには適当な人数（30人前後） ・35人以上になると、施設設備面も含めて活動が適正に行えない
でない	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな対応をすべく、少人数での指導が望ましい ・3年生の人数が37人、丁寧な指導を行っていく上では、人数が多すぎる
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・30人を超える学級は、児童一人ひとりに丁寧な指導が行えない 2件 ・20～30人が適正である ・1学級平均35人の児童数は、指導に時間がかかるため多いと思うが、活発な意見交換には最低20人は必要 ・3～5年生の人数（22～25人）が、望ましいと考える

	中 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・1学級30人前後が、教育活動を行う上で適正な人数 ・生徒一人ひとりに目が行き届き、丁寧な指導が可能（約30人） ・生徒の活動状況が把握しやすい。クラス単位での活動時に個々が役割・存在感の意識を持ちやすい（30人前後）
でない	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の細かい成長や能力を伸ばさせるには、一学級あたりの生徒数（33～35人）が多すぎる
えない	<ul style="list-style-type: none"> ・2,3年生は少人数学級編成で適正と考えるが、1年生は少人数学級編成ではなく（34人）、多いと考える

②教育環境

	小 学 校
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・学級数に比べ、特別教室などの部屋数が少ない ・きめ細やかな指導を行うには、教職員の数が少ない 2件 ・1学級あたりの人数が多いと（35人前後）、教室が狭い。机間巡視をしにくい ・教職員1人の負担を減らすためにも、複数学級（2～3）及び少人数学級編成が望ましい
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の広さや設備について、30人以下であれば、余裕を持って様々な学習活動に使用できる。それを超えると窮屈な状態になる 5件 ・少人数学級を編成できるよう教職員の加配が望まれる 2件 ・担任以外の教員配置が少なく、人数の多い学級担任の負担が大きい 3件

※小学校については、適正規模であると回答した学校は無し

	中 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の広さや設備など生徒が余裕をもって使用できる 2件
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・今の人数ではどの学年も狭い（33～35人） ・スペース的には十分であるが、設備が老朽化し、今後は心配 ・教員数が少ない。教科の専門性が担保できない 2件

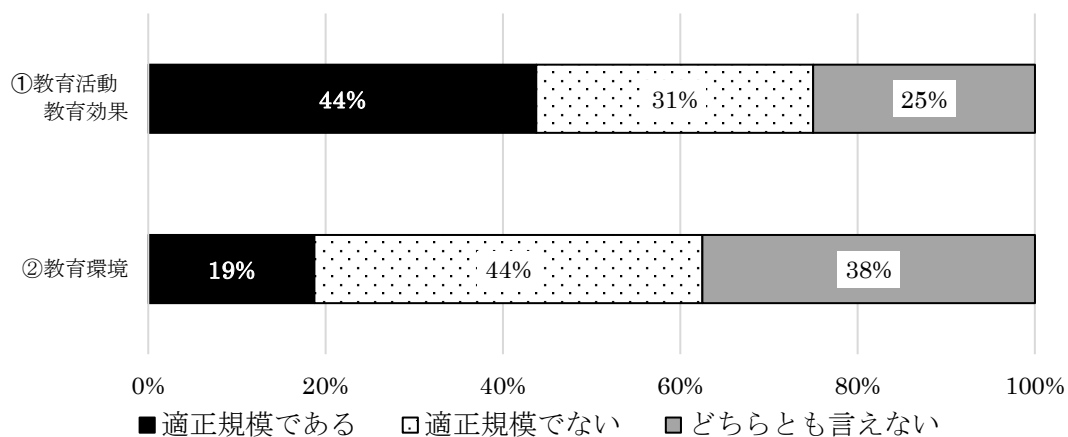
※中学校については、どちらとも言えないと回答した学校は無し

問 4 自身が勤務する学校の学年あたりの学級数

(H30.9.1現在)

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特別支援学級	全学年
郡山南小学校	3	3	3	3	3	4	4	23
筒井小学校	2	2	2	2	2	2	4	16
矢田小学校	1	1	1	2	2	2	2	11
平和小学校	2	2	1	2	2	2	2	13
治道小学校	1	1	1	1	1	1	1	7
昭和小学校	3	2	2	2	3	2	5	19
片桐小学校	2	2	2	2	3	3	4	18
郡山北小学校	3	4	3	3	3	3	4	23
片桐西小学校	2	3	3	3	3	3	3	20
郡山西小学校	3	3	3	3	3	3	4	22
矢田南小学校	2	1	2	2	2	2	2	13
郡山中学校	7	7	7	/			3	24
郡山南中学校	5	6	6				5	22
郡山西中学校	4	4	4				3	15
郡山東中学校	2	2	2				2	8
片桐中学校	3	3	3				4	13

問 5 自身が勤務する学校の 1 学年あたりの学級数について、①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）②教育環境（施設、設備、教職員数など）の面から、それぞれどのように感じているか



①教育活動、教育効果の面では「適正規模である」と答える割合が高かったのに対し、②教育環境の面では「適正規模でない」と答える割合が高かった。

問 6 問 5 の回答を選択したそれぞれの理由

①教育活動、教育効果

	小 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員が協力して指導できる (2～3 学級) 2 件 ・規模が大きいことで、学校行事をダイナミックに展開できる ・クラス替えを通し、児童の成長が期待できる ・人間関係の固定化を回避できる
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・手の掛かる子も多く、学校裁量で少人数指導を行っている ・2 学級の場合、1 担任が不在の時や、経験の浅い教師へのフォローに苦勞する ・単学級編成の学年の場合、担任 1 人に負担がかかり、その分児童への配慮が手薄になってしまう
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・単学級の学年があるが、児童の成長の点から、複数学級が望ましい 2 件 ・1 学年 2 学級は、相互協力が得られやすいが、学年が上がるにつれ、人間関係が複雑になり、クラス替えなどで選択肢が多い方が調整しやすい ・1～6 年生までクラス替えがなく、人間関係の難しさがあるが、反面、まとまりや地域とのつながりは強い

	中 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・学年すべての学級を一人の教師で担当可能 (1 学年 4 学級) ・クラス替えにより人間関係に変化を持たすことができる 2 件 ・生徒間の切磋琢磨ができる 3～4 学級が望ましい
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・学年 4～5 学級が妥当。団体として行動しやすく、教師も生徒の顔を覚えられる規模である ・各学年 2 学級は、教師の目が届きやすいが、生徒の競争心、向上心が生まれにくい。進級時のクラス替えにも限界がある

※中学校については、どちらとも言えないと回答した学校は無し

②教育環境

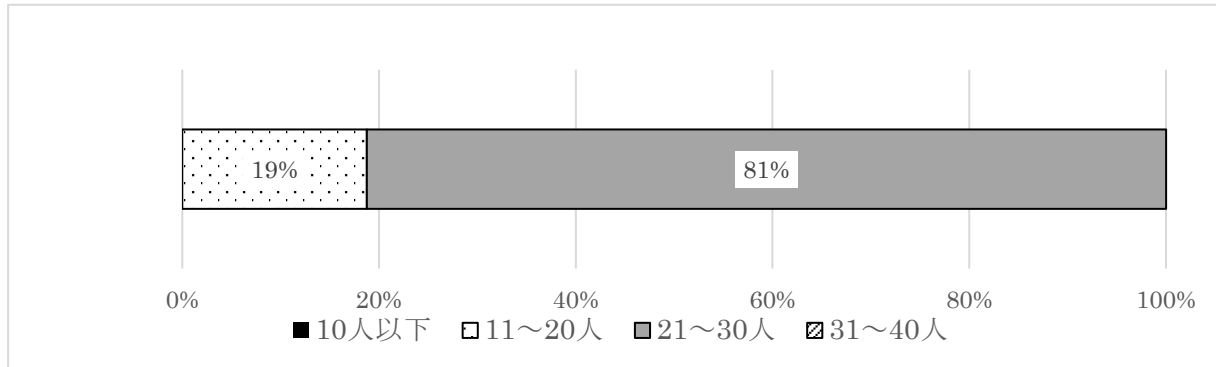
	小 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> すべての学年が3学級のため、設備が例年どおり使える。また、校務分掌など役割を分担でき、教師1人の負担が少ない
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> 学級数が多く(3~4学級)、体育館やプールなどの施設を使用する授業時間の割り振りに苦労している 課題のある児童が増え、丁寧な指導をすべく、職員数をできるだけ確保したい 1学年単学級の場合、複数の教師で役割分担できず、負担が大きい 2件 1学年単学級の場合、担任は力量のある教師にしか任せられない
どちらとも言えない	<p>学級数が多い場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数編成を行った場合、空き教室が少なく様々な用途に使えない 2件 <p>学級数が少ない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き教室が増え、維持管理に負担がかかる 1学年3学級以上あると、教師間で相談や協力ができ、児童や保護者への対応も十分にできる 3件 教師の負担を考えると、複数学級編成が望ましい 小規模ゆえ、こども園や学童などが校舎に入ることができているが、それが適正かどうか判断しかねる

中 学 校	
適 正 規 模 で あ る	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに棟と階で分けられる（1学年4学級） ・教師間の協力体制や役割分担を組織的に行うことができる（1学年3学級）
適 正 規 模 で な い	<ul style="list-style-type: none"> ・教員数が不足している。特別教室、体育館の利用が重なることがあり、調整等が必要となることがある。タイムリーな指導や効果的な指導がしにくい時がある（1学年5～6学級） ・空き教室がなく、体育時の更衣等も窮屈である（1学年7学級） ・学級数が少ない分、他学年を指導する教師がほとんどで一人にかかる負担は大きい（1学年2学級）

※中学校については、どちらとも言えないと回答した学校は無し

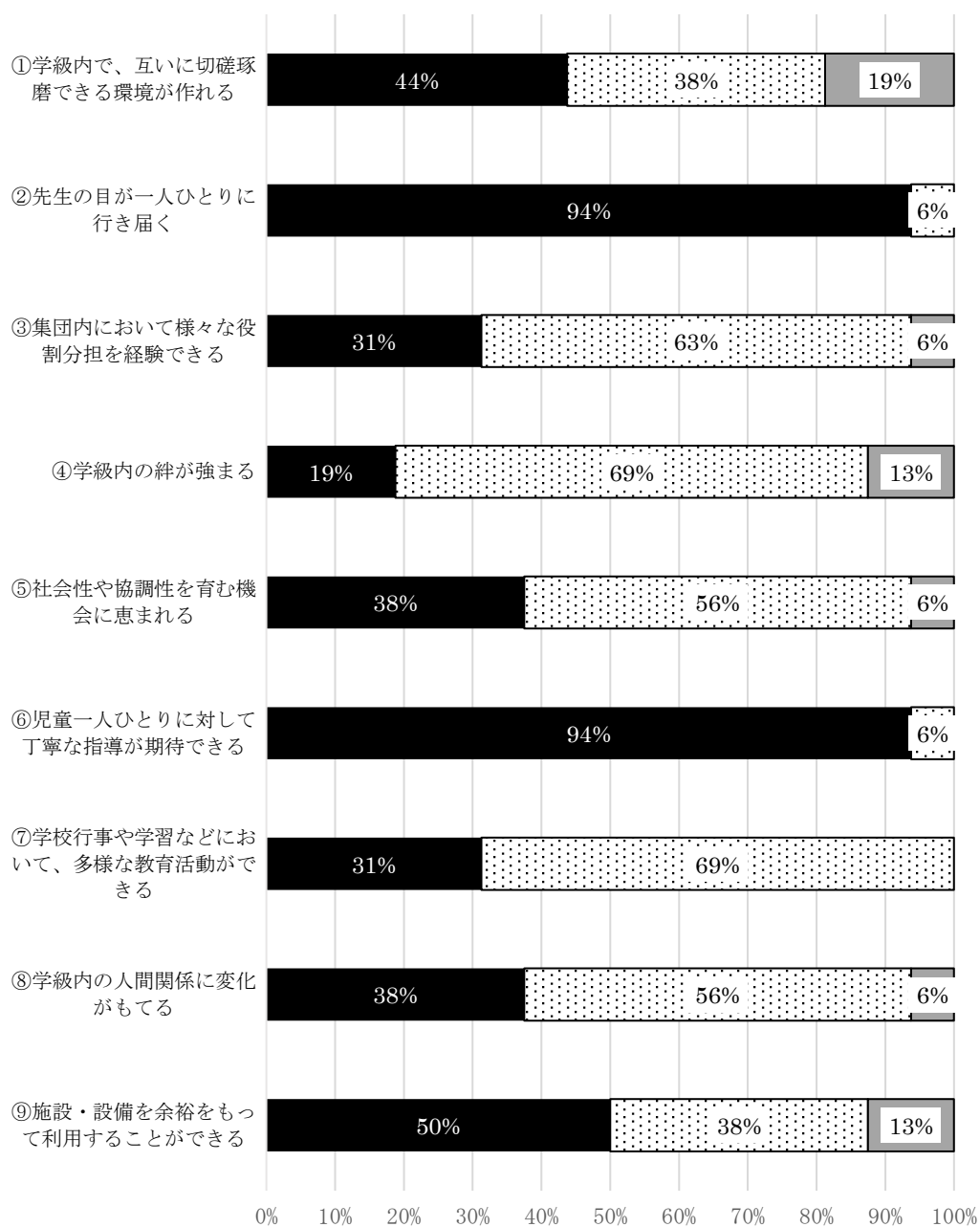
小学校の望ましいと思う児童数、学級数について

問7 1学級あたりの児童数は何人程度が望ましいと思うか



望ましい1学級あたりの児童数について、「21人～30人」と回答した学校が最も多く16校中13校であった。「11人～20人」と回答した学校が3校あり、「10人以下」「31人～40人」と回答した学校はなかった。

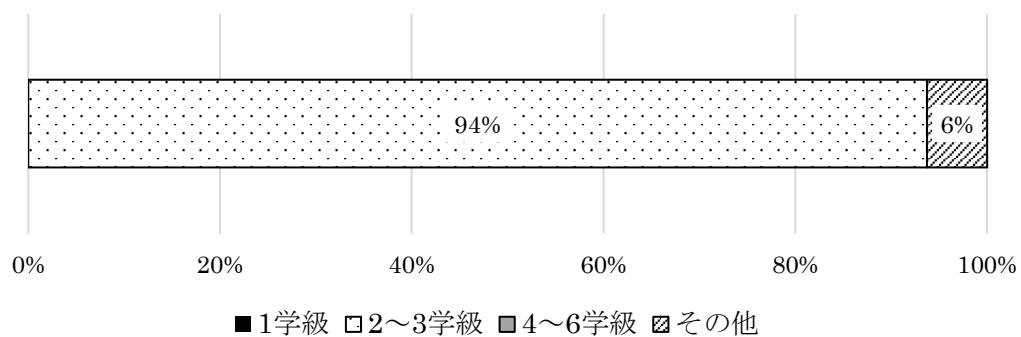
問 8 小学校 1 学級の望ましい児童数を選んだ理由としてどのように考えているか



■ 1. 重視する □ 2. やや重視する ▣ 3. あまり重視しない ▤ 4. 重視しない

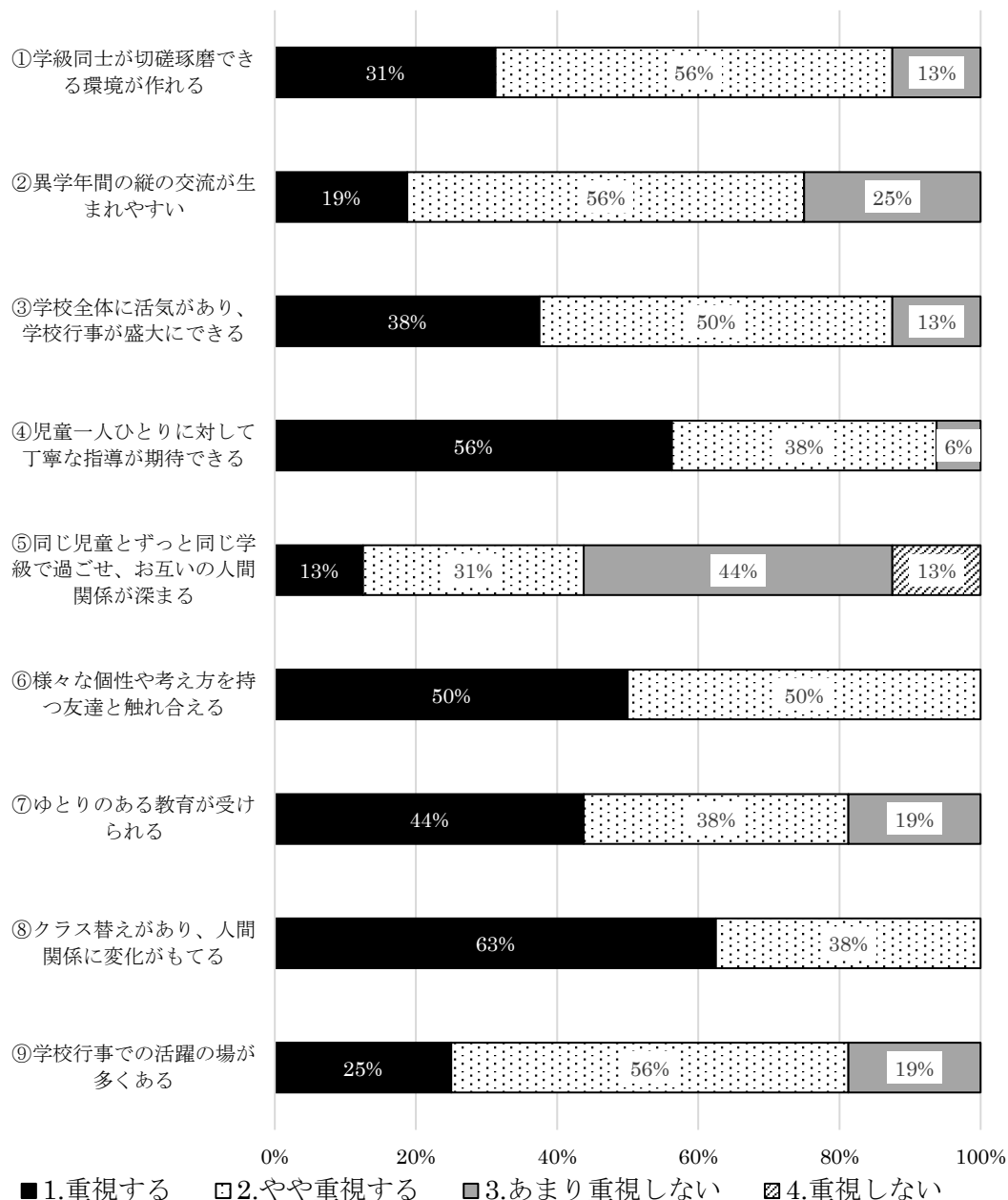
「②先生が目が一人ひとりに行き届く」や「⑥児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」の項目が、「重視する」94%であり、1学級あたりの児童数については、一人ひとりへの丁寧な指導を重視する割合が高いことが伺える。その他の理由として「丁寧な保護者対応ができること」を重視する回答が1件あった。

問9 1学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいか



望ましい1学年あたりの学級数について、「2~3学級」と回答した学校が最も多く、16校中15校であった。その他「3~4学級」という回答が1校あった。

問 10 小学校 1 学年あたりの望ましい学級数を選んだ理由としてどのよう に考えているか

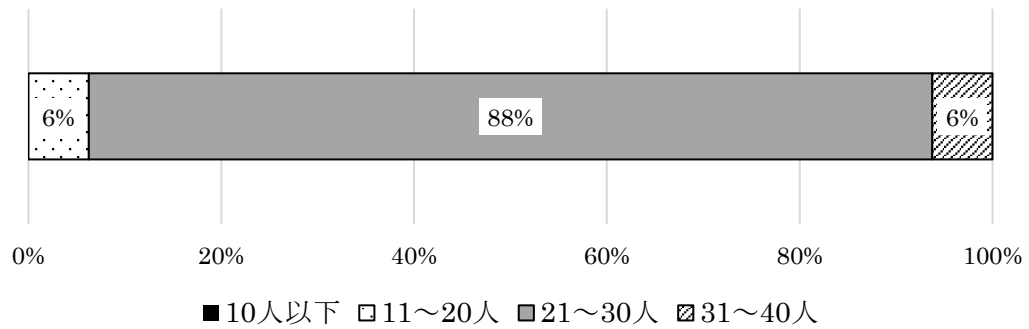


「⑥様々な個性や考え方を持つ友達と触れ合える」や「⑧クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる」の項目が、「重視する」「やや重視する」と合わせて 100% あり、クラス替えによる人間関係の変化を重視する割合が高いことが伺える。

「④児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」も重視する傾向が伺える。その他の理由として「学年の教師間の協力体制が組織できる」を重視する回答が 1 件あった。

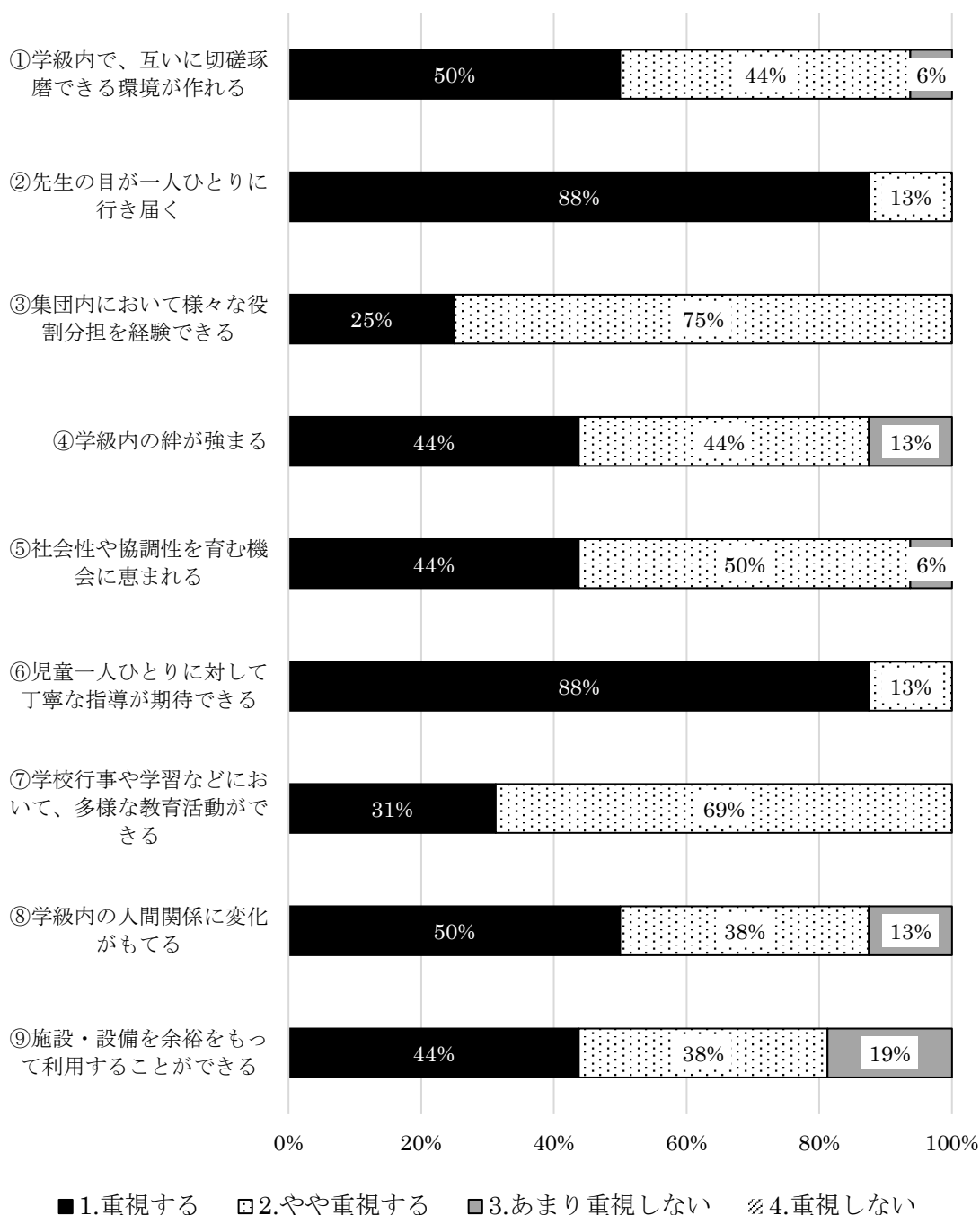
中学校の望ましいと思う生徒数、学級数について

問 11 1 学級あたりの生徒数は何人程度が望ましいと思うか



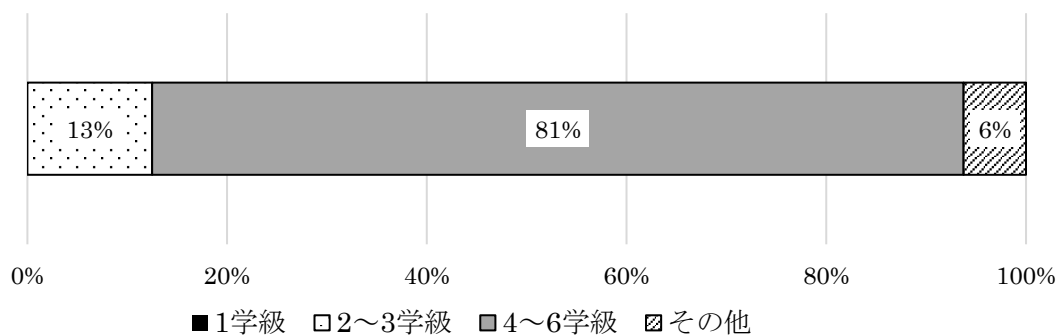
望ましい1学級あたりの生徒数について、「21人~30人」と回答した学校が最も多く、16校中14校であった。「11人~20人」「31人~40人」と回答した学校が1校ずつあり、「10人以下」と回答した学校はなかった。

問 12 中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数を選んだ理由としてどのよう
に考えているか



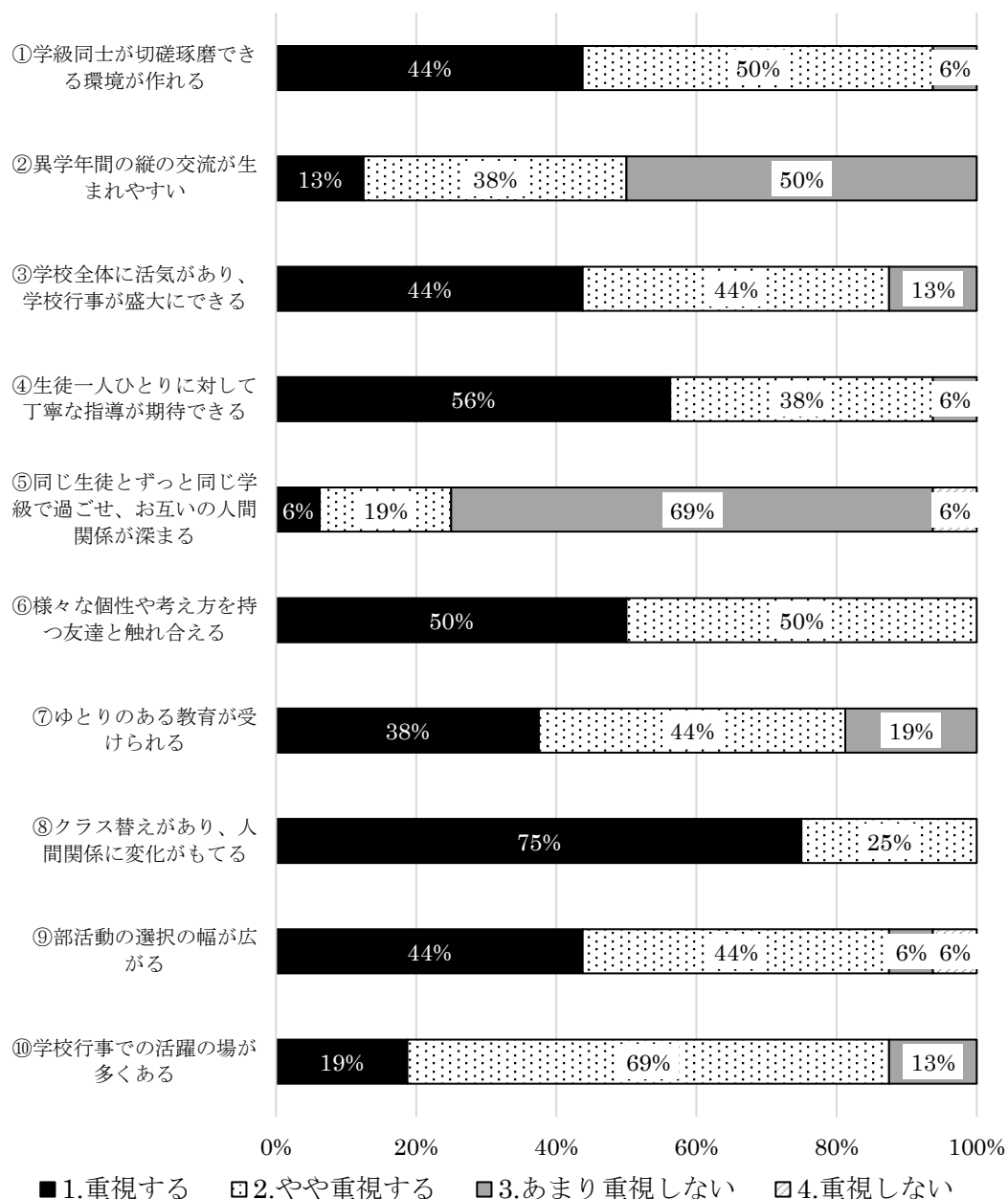
「②先生が目が一人ひとりに行き届く」「⑥児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」の項目が、「重視する」88%であり、一人ひとりへの丁寧な指導を重視する割合が高いことが伺える。その他の理由として「丁寧な保護者対応ができる」を重視する回答が1件あった。

問 13 1 学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいか



望ましい1 学年あたりの学級数について、「4~6 学級」と回答した学校が最も多く、16 校中 13 校であった。「2~3 学級」と回答した学校が 2 校、その他「3~4 学級」と回答した学校が 1 校あった。「1 学級」と回答した学校はなかった。

問 14 中学校 1 学年あたりの望ましい学級数を選んだ理由としてどのように考えているか



「⑥様々な個性や考え方を持つ友達と触れ合える」「⑧クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる」の項目が、「重視する」「やや重視する」と合わせて 100%であり、クラス替えによる人間関係の変化を重視する割合が高いことが伺える。

「④児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」も重視する傾向が伺える。その他の理由として「学年の教師間の協力体制が組織できる」を重視する回答が 1 件あった。

通学距離と時間について

問 15 自校へ最も遠い場所から通う児童生徒のおよその通学距離及び通学時間

小学校	通学距離 (km)	通学時間 (分)
郡山南小学校	2	40
筒井小学校	1.5	30
矢田小学校	2.5	50
平和小学校	1.7	40
治道小学校	2.2	40
昭和小学校	2.5	40
片桐小学校	2.5	35
郡山北小学校	2	30
片桐西小学校	1	20
郡山西小学校	3	60
矢田南小学校	1.4	25
平均	2	37

中学校	通学距離 (km)	通学時間 (分)
郡山中学校	2.2	20
郡山南中学校	4	20
郡山西中学校	4	20
郡山東中学校	3.5	25
片桐中学校	2	15
平均	3.14	20

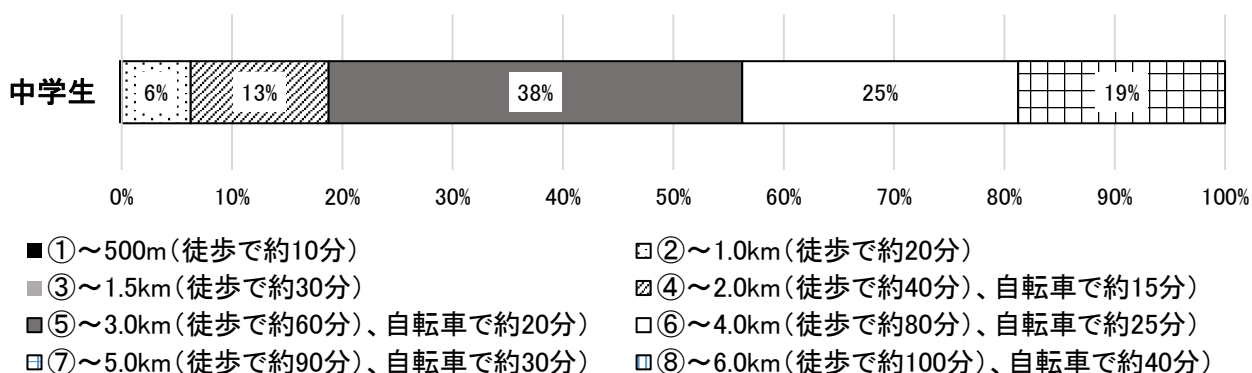
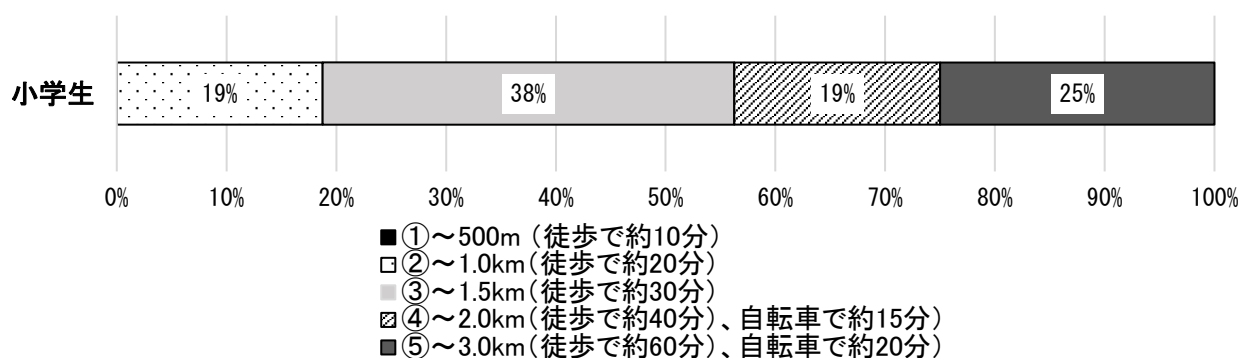
最も遠い場所から通う児童生徒のいる学校は、小学校は郡山西小学校で、通学距離は3km 通学時間は60分であった。中学校は郡山東中学校で、通学距離は3.5km 通学時間は25分であった。中学校は自転車通学が可能のため、小学校と比べ、通学距離は長くなっているが、通学時間は短くなっている。

問 16 自宅へ徒歩及び自転車で通う生徒の割合（中学校のみ回答）

	郡山中学校	郡山東中学校	郡山西中学校	片桐中学校	郡山南中学校
徒歩(%)	65	68	3	93	59
自転車(%)	35	32	97	7	41

片桐中学校は約9割、郡山中学校・郡山東中学校・郡山南中学校の3校は約6～7割の生徒が徒歩で通学しているのに対し、郡山西中学校はほとんどが自転車通学であった。

問 17 小学生と中学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいか

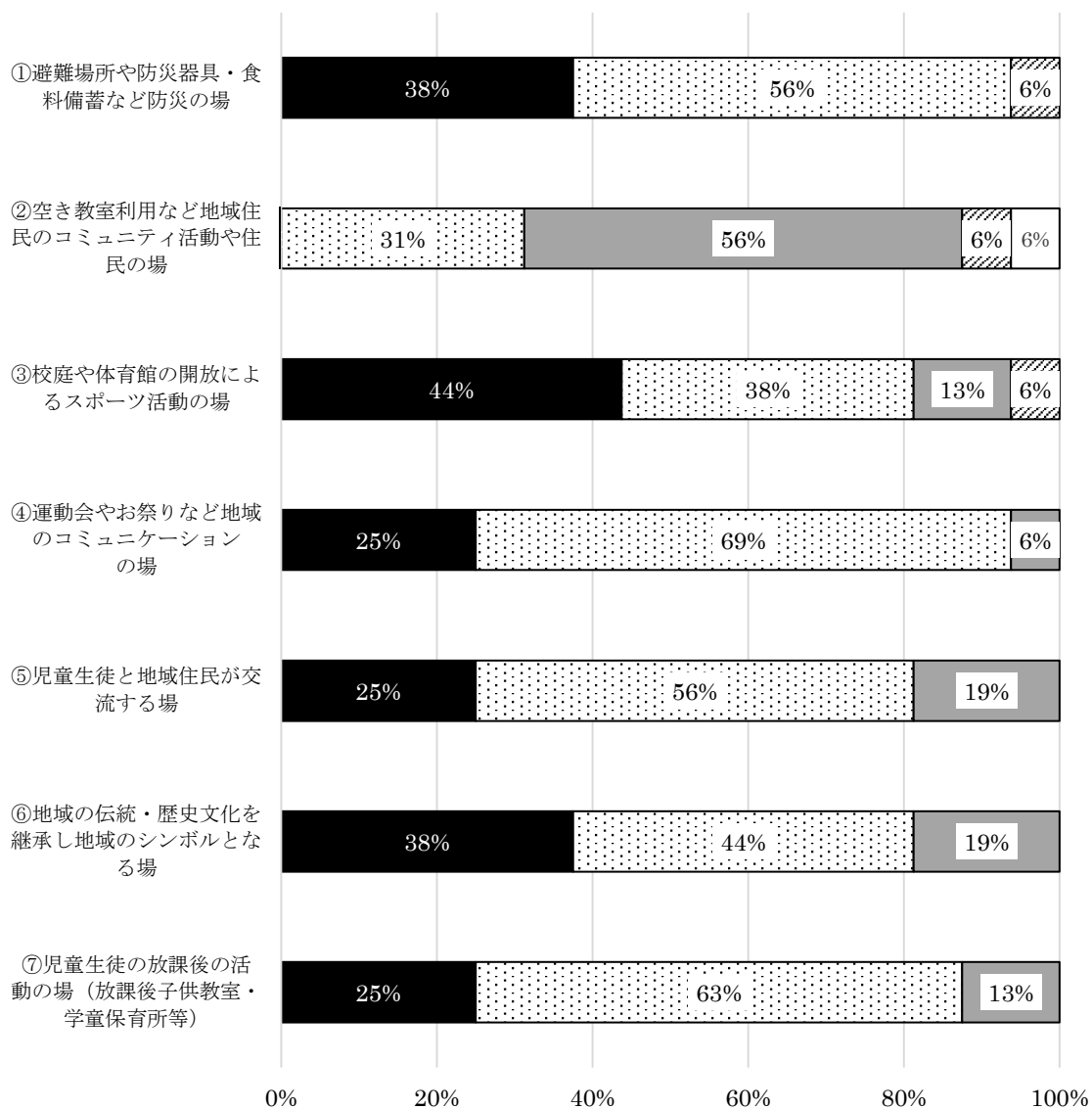


小学生は⑤～3.0kmまでが16校中4校、④～2.0kmまでが3校、③～1.5kmまでが6校、②～1.0kmまでが3校であり、徒歩で通学することが基本であることから、3kmより遠い距離での回答はなかった。

中学生は⑦～5.0kmまでが16校中3校、⑥～4.0kmまでが4校、⑤～3.0kmまでが6校、④～2.0kmまでが2校、②～1.0kmまでが1校であった。自転車通学が可能であるため、5kmまでならよいの回答であった。

地域と学校の関わりについて

問 18 学校は、地域においてどのような役割を果たしていると思うか

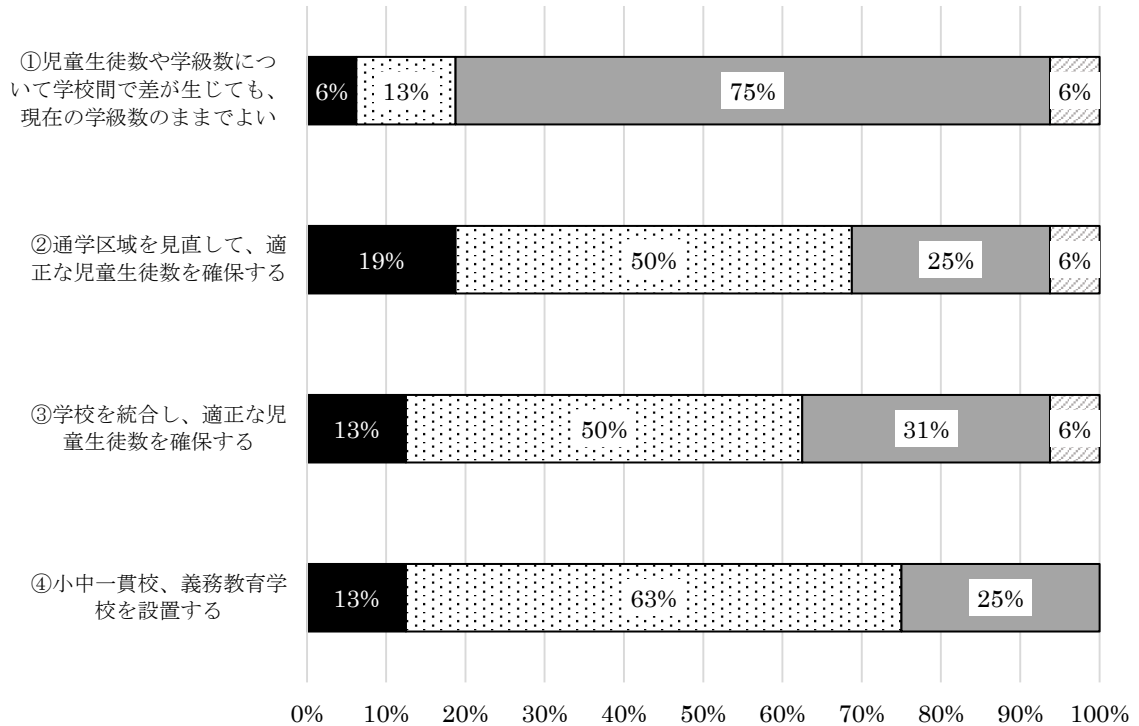


■ 1. 1. と思う □ 2. やや 1. と思う □ 3. あまり 1. と思わない ▣ 4. 1. と思わない □ 5. 未回答

「②空き教室利用など地域住民のコミュニティ活動や住民の場」以外の項目は、「1. 1. と思う」「やや 1. と思う」が 80%以上を占めており、学校が地域において重要な役割を果たしていると認識している学校が多いことが伺える。その他の理由として「未来の地域の担い手を育成する場」であると教育機関としての役割を認識しているという回答が 1 件あった。

教育環境の課題について

問 19 今後さらに児童生徒数が少なくなることが想定されるが、これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思うか



■ 1. そう思う □ 2. ややそう思う ■ 3. あまりそう思わない □ 4. そう思わない

「①児童生徒数や学級数について学校間で差が生じても、現在の学級数のままでよい」については、「あまりそう思わない」「そう思わない」で約80%を占めており、検討を進めるべきとの認識が大半である。さらに、②～④の検討方法に関する設問についても、60～70%の割合で、「そう思う」「ややそう思う」との回答であり、何らかの方法により検討を進める必要があると認識していることが伺える。

問 20 大和郡山市の学校の適正規模・適正配置についての意見

適正規模・配置について

- ・児童生徒の向上心や社会性の育成等、また教職員の負担を考えると、一定の規模は必要 3件
- ・小中学校とも一定の学級数（小学校 2～3 学級、中学校 4～6 学級）が維持できるような規模が必要
- ・小中一貫校の検討が必要 2件
- ・学校規模・配置の適正化は今後必要と考える。今回、各学校区において、自分たちの街・地域での学校の役割等について、抜本的に考えていく機会であってほしい

校区の変更について

- ・校区割の変更による児童生徒数の見直しは必要
- ・ゼロベースで校区の見直しを考えてほしい。また、通学の安全を確保するため、スクールバス等を確保してほしい
- ・小学校区と中学校区が合致しない校区の見直しを行い、地域的な教育の一貫性を維持することが大切

その他

- ・児童生徒数の減少に伴い、対策の方向性を協議していくことが大切
- ・その時の生徒数学級数に応じて適正な教育内容を工夫し選択していくのが学校の役目
- ・地域住民と十分話し合うことが大切。その中で学校教育の方向性を丁寧に説明すれば理解は得られると思う
- ・様々な意見がある中でも「適正」を追求することは大切
- ・きめ細やかに丁寧に対応できる環境で子どもたちが学べるように
- ・校舎の老朽化が激しいため、適正規模とともに改築を実施してもらいたい

問 21 大和郡山市の教育において、将来どのような児童生徒の育成を目指し、力を入れて行くべきかと思うか

地域に根差した教育・郷土を愛する児童生徒の育成

- ・郷土の歴史・文化・自然を愛する心を持つ児童生徒の育成 4件
- ・「仕事や子育てを地元で」と思えるような未来の大和郡山に夢を持てる教育
- ・未来の地域の担い手を育成できるような地域に根差した教育
- ・地域によって子どもの教育に差が出ず、また地域の特性にあった個性のある教育

自ら学ぶ力・社会性・協調性の育成

- ・自ら考え・学び・表現できる児童生徒の育成 3件
- ・社会性を身に付け、周囲と協調しながら、社会の一員としての役割を担っていきける児童生徒の育成
- ・コミュニケーション能力を高め、協調性のある生徒の育成

その他

- ・自尊感情や自己有用感を高める取り組みは、特に大切
- ・夢や希望を持って頑張り続けられる児童生徒の育成のため、学習面運動面ともに基礎的な力をしっかり身につけさせることが必要
- ・人間らしく優しい心温かい人間関係が築き上げられる児童生徒の育成
- ・グローバル化や高齢化社会に対応できる知識技能スキルの育成
- ・「教育大綱」の基本理念を基にした児童生徒の育成

和郡山市学校規模適正化等審議会 スケジュール(変更案)

	時期	審議会 議題 (視察含む全7回)
平成 30 年度	6月	第1回審議会 (内容) ・委員の委嘱又は任命 ・教育長あいさつ ・委員の紹介 ・会長、副会長の選出 ・教育委員会からの諮問 ・学校規模適正化等審議会の傍聴に関する規則について ・開催スケジュールについて ・学校を取り巻く現状について
	8月	第2回審議会 ・視察について ・校長へのアンケート(案)について
	11月	第3回審議会 ・視察(治道小学校、郡山東中学校)
	1月下旬	第4回審議会 ・視察報告 ・学校長へのアンケート調査結果について ・市民へのアンケート(案)について
平成 31 年度	5月中旬 ～下旬	第5回審議会 ・市民へのアンケート結果について ・第1～4回審議会資料のまとめ ・意見交換
	8月上旬	第6回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(案)について ・意見交換
	10月下旬	第7回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(案)について ・意見交換
	12月上旬	第8回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(案)について ・意見交換 →教育委員会への答申書の提出

H31.12 学校規模適正化基本方針(案)を教育委員会へ提出・審議



H32.1~2 適正化基本方針(案)のパブリックコメントの実施



H32.3 適正化基本方針を議会へ報告、HPにて公表